

と呼んでいる。

地層処分低レベル放射性廃棄物

(ちそうしょぶんでいれべるほうしゃせいはいきぶつ)

TRU 廃棄物の中には、長期間にわたり環境に影響を及ぼすおそれがあるため、高レベル放射性廃棄物と同様に深い地層へ処分する必要のある廃棄物があり、「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」では「第二種特定放射性廃棄物」と特定されている。本資料では、この「第二種特定放射性廃棄物」という語のかわりに「地層処分低レベル放射性廃棄物」を用いている。

地表踏査 (ちひょうとうさ)

地表面で行う現地調査。地表で確認できる事項、例えば、地層・岩石の分布、地質構造、活断層の分布等を調べる。

特定放射性廃棄物 (とくていほうしゃせいはいきぶつ)

「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」では「第一種特定放射性廃棄物」と「第二種特定放射性廃棄物」を定めている。「第一種特定放射性廃棄物」は具体的にはガラス固化体を意味している。日本では、再処理委託した外国より返還されたガラス固化体や、日本原子力研究開発機構 (JAEA) および日本原燃株式会社においてつくられるガラス固化体が地層処分の対象となる。「第二種特定放射性廃棄物」は日本原子力研究開発機構 (JAEA) および日本原燃株式会社の再処理工場や MOX 燃料工場の操業・解体に伴って生じる TRU 廃棄物のうちの一部分が地層処分の対象となる。

な

熱水対流 (ねつすいたいりゅう)

地下に存在する熱源から放出される熱によって地下水の対流が引き起こされること

は

複成火山 (ふくせいかざん)

休止期間をはさんで噴火活動を何度かくり返した火山

物理探査 (ぶつりたんさ)

人工的に発生させた地震波や電磁波等を利用して、空中、地上、水上等から地下の状況を間接的に調査すること。地質構造の状況、鉱床の有無等を調査することができる。

変形帯 (へんけいたい)

活断層の破碎帯周辺に認められる断層活動に伴う地層の変形が生じているゾーン。断層活動による力を受けて地層の変形を生じていることから、将来、断層活動に伴い、処分場に著しい影響を及ぼすことが想定される。

膨張性地山 (ほうちようせいじやま)

坑道の掘削等の際に、坑道周辺の岩盤が徐々に坑道の内側へ膨らみ出してくるような現象を引き起こす岩体をいう。坑道の崩壊、坑道内への押し出しにより、工事が難航する可能性がある。

ボーリング調査 (ほうりんぐちようさ)

地下の地質状況等を調べるため、地中に直径数cm～十数cm程度の円筒状の孔を掘って行う調査。この際に採取した岩石試料、

孔を用いた各種の計測等によって、地下の岩石、地下水等に関するさまざまな情報を取得することができる。地層処分では、ボーリング調査を行う深さは、数百m～千m程度となる。

ま

マグマ

岩石が高温、溶融した状態で地下に存在しているもの。一般に、マグマはマントルの上部で発生し、周囲より密度が小さいためにマントル内を上昇し、地殻に貫入、地表への噴出に至る。

未固結堆積物 (みこけつたいせきぶつ)

礫、砂、泥等の堆積物が固結していない状態にあるものをいう。

や

山はね (やまはね)

一般に、地下深部の非常に硬い岩盤を掘削した際に起きる現象で、坑道周壁の岩盤が、振動と大音響を伴って岩片状となり、坑道内に飛び散る現象をいう。

参 考 文 献

第四紀火山カタログ委員会編(1999):日本の第四紀火山カタログ v.1.0 (CD-ROM 版)、日本火山学会

核燃料サイクル開発機構(1999):わが国における高レベル放射性廃棄物地層処分の技術的信頼性—地層処分研究開発第2次取りまとめ—

特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針、閣議決定、平成20年3月14日

原子力安全委員会(2000):高レベル放射性廃棄物の処分に係る安全規制の基本的考え方について(第1次報告)

徳山英一、本座栄一、木村政昭、倉本真一、芦寿一郎、岡村行信、荒戸裕之、伊藤康人、徐垣、日野亮太、野原壯、阿部寛信、坂井真一、向山建二郎(2001):日本周辺海域の中新世最末期以降の構造発達史、海洋調査技術、第13巻第1号、P27-53、海洋調査技術学会

中田英二・田中和広(2001):マグマの貫入が岩盤に与える影響—活火山周辺に分布するマグマ噴出跡の分布—、日本応用地質学会研究発表会講演論文集

中田高・今泉俊文編(2002):活断層詳細デジタルマップ、東京大学出版会

原子力安全委員会(2002):高レベル放射性廃棄物処分の概要調査地区選定段階において考慮すべき環境要件について

原子力発電環境整備機構(2004):概要調査地区選定上の考慮事項の背景と技術的根拠 NUMO-TR-04-02